

# やまなし未来会議 会議録 (高校生との意見交換)

日 時 平成28年1月29日(金) 午後3時~5時

場 所 山梨県庁防災新館201会議室

## 出席者

- ・ 高校生(県内公立、私立高等学校生徒 19名)  
山梨英和高校 網野さん、甲斐清和高校 佐藤さん、  
駿台甲府高校 小林さん、日本航空高校 三溝さん、  
富士学苑高校 寺井さん、北杜高校 中島さん、大橋さん、  
韮崎高校 若尾さん、甲府第一高校 服部さん、  
甲府東高校 杉田さん、甲府工業高校 荻野さん、  
巨摩高校 深澤さん、市川高校 鄭さん、笛吹高校 山本さん、  
日川高校 風間さん、吉田高校 羽田さん、  
富士河口湖高校 渡邊さん、甲府商業高校 小池さん、島田さん
- ・ 委員  
牛奥委員、萩原委員 オブザーバーとして参加
- ・ 県  
後藤知事(議長)、阿部教育長、松谷知事政策局長  
(事務局:知事政策局)手塚次長、中澤政策参事、高野政策主幹、  
(事務局:高校教育課)斉木課長、手島高校教育指導監

## 会議次第

1. 開会
2. 知事あいさつ
3. 出席者紹介
4. 意見交換 「山梨の未来について考える」
  - (1) 山梨県の優れたところ
  - (2) 山梨県に足りないところ
  - (3) 未来の山梨県に望むもの
  - (4) 魅力ある山梨県にするためのアイデア
5. 閉会

## 内 容

司会:中澤知事政策局政策参事

1. 開会
2. 知事あいさつ(要旨)  
(後藤知事)  
今日はあいにくの雨であるが、もう少し温度が上がると先日の雪も溶けてくるのではないかと思う。今日はお忙しい中、皆さん方にお集まりいただき、また委員の先生

方にも御足労いただき本当にありがとうございます。

このやまなし未来会議は、昨年の7月からスタートし、今日は牛奥委員と萩原委員に来ていただいているが、今山梨県でいろいろな課題がある中、もっといい山梨にしていきたいということで、委員の皆さんといわゆる未来志向でいろいろな議論をしているところである。

かねてから、これからの山梨だけではなく日本や世界を担う若い皆さん方と話や意見交換をしたいというのが私の強い思いであった。そういう意味では今日皆さん方が来てくれて、いろいろな話を一緒にできることを本当に嬉しく思う。

私も58歳になったから、皆さんのお父さん、お母さんよりは少し上の年代かもしれないが、40年近く前は皆さんと同じように高校生であった。当然初めから高校生になるわけではなく、小学校、中学校、高校と進み、高校卒業して大学に行く方、社会に出る方、これからの進路を既に決めた方、今いろいろ悩んでいる方、様々であろうが、まさにこの悩みというのが人間を一回りも二回りも大きくするものだと思っている。

実は皆さん方から事前にいただいた山梨へのいろいろな思いについて、書類としては昨日までに全て目を通させていただいた。様々な思いを皆さんが持ってくれているのだなということと、併せてそれぞれの地域の課題や、またこれから山梨に必要なもの、皆さん方が思っている山梨の魅力、また山梨に足りないもの、いろいろな課題を上手にまとめてくれていると感じた。

私も40年前、皆さんと同じような高校2年生の時に、これから自分でどういうふうな社会人になろうか、どういうふうな進路を決めようかと思い悩んでいた時に、一冊の本に出会った。皆さん方は読んだことがないかもしれないし、今図書館にはないかもしれないが、「成長の限界」、ローマクラブという、いろいろな科学者や文化人が集まって書いた本である。その当時は日本も高度成長期になりつつあり、東京オリンピックが終わってすぐの時であった。そういう意味では今のように人口が減少するとか、所得がなかなか伸びないとか、自分の思うような仕事に就けないとか、今皆さんが思っているようなことではなく、もっともっと日本は元気になるし、また自分たちの暮らしも自分がかんばっていけば必ず良くなるというような強い思い、ある意味では明るい時代だったと思っている。皆さん、たぶん先生の前では言えないかもしれないが、家に帰ればスマホやインターネットをしている人もいると思う。コンビニも家や学校の近くなど、ほとんどのところにあると思う。40年前はコンビニもなければ、スマホもなければ、携帯電話もない時代であった。そういう意味では、皆さん方が今高校生として勉強している時代とは大きく違った時代に私も生きてきたし、そういう中で自分なりにいろいろなことを感じた。その「成長の限界」は、人口が増加し過ぎると食料やエネルギーがなくなってしまう、そのアンバランスを世界全体でどうするかということを提案した本であった。それに触発されて、大学に行き、もう35年以上前になるが、農林水産省に入り、そして昨年知事になる前までは国会議員で国政の仕事をしていた。

今、政治という部分が皆さん方、若い世代から見れば何となく自分たちからは遠いと思いがちであり、また誰かがやってくれるだろうという、もしかしたら他力本願の部分もあるかもしれないが、もうすぐ卒業する方や高校3年生になる方もいると思うが、この夏から満18歳で選挙権が付与されるという中で、要するに自分たちも政治や世の中への変化に関われるという時代になる。

朝ドラ、NHK連続テレビ小説は今皆さん時間がないから見ていないと思うが、「あさが来た」という幕末から明治の初めにかけて活躍した、「あさ」という女性のドラマをやっているが、その120年少し前という時代は、新しく選挙制度がようやく

でき、その時には高額納税者、いわゆるお金持ちの人しか選挙権が与えられなかった時代である。今日は女性の皆さんもたくさん来ていただいているが、70年前の戦後が始まった時ようやく女性に選挙権が与えられた。ということで、この明治から大正、昭和、そして今の平成という時代の流れ、活動の中で、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、またその前のひいじいちゃん、ひいばあちゃん、いろいろな人の思いを脈々と受け継いでいる皆さんである。

今山梨は、人口もこの5年間で3万人以上減少し、地域の経済活動も非常に厳しいと思う。皆さんのような若い方々が減り、高齢者と言われている方々が増えていく、いわゆる少子高齢化が非常に速いスピードで進んでいる。先ほどお話をした僕自身の時代とは違い、将来の皆さんの方向性がなかなか見えにくい時代かもしれないが、ぜひ今日は、若い皆さん方の率直で元気ではつらつとしたいろいろな意見をいただきたい。そして、それをこれからの県政の課題に参考にさせていただく。また、それをベースにして土台を作ること、私たちの時代から皆さんの時代にバトンタッチを上手にしていきたいと考えている。本日はそのような意見交換会にしたいと思っている。くれぐれも怖いおじさんではなく、皆さんのお父さん、お母さんと思って今日は話を聞かせてもらいたい。よろしくお願いします。

### 3. 出席者紹介

- (1) 委員等紹介
- (2) 高校生紹介

### 4. 意見交換 「山梨の未来について考える」

- (1) 山梨県の優れたところ
- (2) 山梨県に足りないところ
- (3) 未来の山梨県に望むもの
- (4) 魅力ある山梨県にするためのアイデア

#### (中澤政策参事)

それではここから意見交換会を始めさせていただきます。

本日のやまなし未来会議は「山梨の未来を考える」を大きなテーマとし、4つの具体的なテーマについて皆さんから意見をいただきたいと思っている。先ほどの知事の挨拶にもあったが、ふるさと山梨について普段思っていることや感じていること、こんな山梨だったらいいなというようなことについて、ぜひ率直な発言をいただきたい。

また、皆さん全員に発言していただきたいと思っているので、テーマごとに大体5人位の方を目安に指名させてもらう。続けて発言いただき、その後知事から話をいただくという形で進めたいと思う。よろしくお願いします。

- (1) 山梨県の優れたところ

#### (日本航空高校 三溝さん)

山梨県は自然が豊かで空気がきれいなところがすごく魅力的なところだと思う。また、自分は寮生活をしているが、たまに寮から外出した時に、昔ながらの近所付き合いが地域に根強く残っており、温かい雰囲気があるところがとても過ごしやすい土地だと思う。

(甲府第一高校 服部さん)

大きく分けて二つあると思う。一つは自然環境が優れていること。ヨーロッパ圏の人とアジア圏の人が旅行する時の傾向があり、ヨーロッパ圏の人々は自分の家族や友達とツアーを組んで自分の決めた場所に行くというのが多いが、アジア圏の人々は日本人もそういう傾向があるように、ツアー、バスツアーなど集団で移動するという傾向がある。その場合、ヨーロッパ圏の人々はやはり自然、ヒッチハイクなど割とそのようなものを好む傾向もあるので、自分で富士山に登ると人が多いのかなと思う。そういう観光面においてやはり環境、山梨の自然というのは一番の魅力だと思う。

そして二つ目は、山梨県の人々そのものについてである。ヴァンフォーレがいい例だと思うが、一つの目標を持つとそれに向かってみんなでまとまって同じ方向に進む。これが一つの魅力だと思う。

まとめて、山梨の自然、そして山梨の人々、これがいいところだと思う。

(甲府工業高校 荻野さん)

山梨県は日照時間が全国で一位ということもあり、とてもいいところだと思う。そのため、山梨は農業や果物がとても有名で、農産物を盛んに県外に発信できると思う。

(市川高校 鄭さん)

山梨県は住みやすい環境にあると言える。第二子の保育料無料をはじめとする、様々な子育て支援体制や施策など、何よりも人々の地域の温かさを身近に感じる機会が多いと思う。

また、たくさんの山に囲まれている山梨県は豊かな自然がある。きれいな空気とすごいおいしい水、四季折々に彩る山々、そのような豊かな自然と共生できているという点も優れていると思う。

(吉田高校 羽田さん)

私は山梨県全体と、私が住む富士五湖周辺について、それぞれについて考えてみた。

まず山梨県の優れているところとして、日本で初めて保育料が二人目から無料となる場所である。県のブログでは画期的な施策として載っておりとても印象的だった。保育に力を注ぐことは、これからの世の中にとって人材育成など利点は多くあり、子供たちの健全な成長と保護者の負担軽減につながると思う。また、桃、ぶどう、ワインの生産が盛んであることも強みであり、世界に誇ることができる文化があることは、山梨県のアピールできる点だと思う。

私が住む富士五湖周辺地域は、富士山を基盤とした観光業が盛んである。例えば、富士登山者をターゲットとし、富士山をモチーフとしたお土産はたくさんの種類がありとても人気がある。東京に近く、空気が澄んでいることを生かして、富士山だけではなく青木ヶ原樹海や風穴、氷穴などといった観光スポットがある。国内に限らず外国からも幅広い範囲でツアーなどで訪れる人を多く見ることができる。リニアが開通した際に、富士五湖周辺に人を呼び込むことができれば、さらなる観光業の活性化が見込めると思う。加えて山梨県はインターチェンジが多く東京に近いので、工場や企業を誘致する場所としてはとても優れていると思う。それだけではなく、そういった環境を生かした自然学習や学校行事を行えることが極めて優れている点だと思う。

(後藤知事)

5人それぞれから山梨の自然環境の良さをまず挙げてもらった。そのとおりだと思う。実はこの未来会議でいろいろ議論をいただいた総合計画という、このような(実

物を見せながら) 厚い冊子の中でもまとめて記載しているが、やはりこの70年、例えば東京や神奈川などに近いながら開発があまり進まず、自然が残されてきたことが一番大きな要素だと思っている。また、先ほど市川高校の鄭さんが山梨は水もおいしいという話をしてくれたが、水も普通に水道をひねって飲めるというのはアジアの地域の中でも日本が持っている優位性だと思う。本県は山々が県土面積の80%を占め、戦後植林も行い、森林、緑が残っている。そこでおいしい水が10年、20年かけて伏流水、地下水として揚げられてくるということで、ミネラルウォーターも実は日本一生産量が多い県である。

そういう意味では、自然というものは、先ほども少し話をしたように、私たちの世代よりもっと前の世代からずっと守ってきたものである。これを今皆さんが話をしてくれた、特に吉田高校の羽田さんが言ったように観光などにどう結び付けるのかということが重要である。多分皆さんの家のそばにもたくさんの地域資源、例えば神社やお寺などがあり、富士山のそばには風穴や氷穴、甲府の北側には昇仙峡などいろんなスポットがあり、おいしい水、おいしい果物もある。見たことがない、来たことがない人から見れば、それは観光資源になり得る。

PM2.5など環境悪化が進み、花粉症や風邪でなくてもみんなが一日中マスクをして生活をしているような状況も実は日本のすぐ近くに存在する。私が子供の時には、急激な経済成長や企業活動を環境に配慮せずにやり過ぎたため、いわゆる公害が社会的に日本全体の大きな課題になったが、今はそういうことはほとんどない。山梨のこの自然をどうみんなで守っていき、その自然の魅力を観光産業などにどう生かしていくかということが一番大切な部分であると思っている。

羽田さんと鄭さんが話してくれた子育ての関係、私の時代はだいたい2、3人兄弟がいたが、皆さんは2人か、1人の方も多くいると思う。今山梨県の合計特殊出生率は1.43で、2人を切っている。そのため、この4月1日からを目指しているが、日本で初めて第二子の保育料の無料化ということを施策として実施することになっている。ただこれは山梨県だけで決められるものではない。ほとんどの社会保障、子育てや教育、医療・介護などは市町村が主となって協議、実施しており、県はそれを広域行政で束ねて後押しするという形であるので、市町村とよく相談、調整していく。第二子の保育料無料化、実際は3歳未満ということであるが、一番子育てに大変な時期に社会全体で子育てを後押ししようということである。

この新しい施策については、三権分立で今国会でもいろいろな議論をしているが、山梨県においても議会というものがあり、私は知事として、ここにいる教育長や知事政策局長もいわゆる役所の執行部の人間として、2月を予定している今度の議会において、国会と同じように議員の半分以上の方が合意をしてくれなければ、予算や条例について実は制度として執行ができないことになっている。冒頭でも話したが、今まで20歳にならなければ選挙権の行使ができなかったものが、法律改正、大きな時代の流れの中で、今年の夏からは18歳から選挙に行って、自分がどうしたいかという意思表示ができることになる。今日19人の高校生に来てもらっているが、みんなそれぞれ一番やりたいことは多分違うと思う。今週火曜日に東京で大村智先生に短時間であったが御一緒させていただいた時に、若い皆さんが自分で一番したいこと、そしてそれが科学であろうが、医学であろうが、製造業であろうが、社会に貢献するということは一緒だから若い皆さんに期待をしているということくれぐれも伝えてほしいというお話をされた。

山梨に生まれ育ち、「山梨の自然環境っていいよね。これをぜひ生かしていきたいよね。」という先ほどの5人の皆さんの話について、そのとおりであり、それを具体的にどう進めるかについては、先ほどお話しした12月に策定した総合計画、200ページ

ぐらいあるかもしれないが、山梨の魅力、山梨が一番のものなどいろいろな資源もまとめてあるので、受験勉強に差し障りのない範囲でぜひ読んでいただきたい。少し長くなったが、今5人の皆さんから話があった本県の魅力は多分その総合計画に全部入っていると思うが、入っていなかったらぜひ入れるし、これから大いに参考にさせていただく。

## (2) 山梨県に足りないところ

(甲府商業高校 島田さん)

交通面が未発達だと思う。イオンモールやラザウォークなどの大型商業施設に行く交通手段が私としてはほとんど車や電車だけと思ったからである。

(北杜高校 中島さん)

私が思う山梨県の足りないところは耕作放棄地が目立ち、またごみの不法投棄が年々増えていることである。また環境の破壊、動植物への思いやりが欠け、大切にしないところも足りないところだと思う。

(駿台甲府高校 小林さん)

私が思う山梨県の足りないところは、昔からある商店街も閉店が続き、活気がなくなっている地区が多いことである。実際に先日パレードで甲府市内を歩いたのだが、甲府の中心街であるにも関わらずシャッターが下りている店が多いことにとっても驚いた。また、若者が進学や就職を求めて都会へ流出してしまう傾向があるので、多くの大学の学部、魅力的な学部や設備が整い、若い人たちが働きたいと思える職場があったらいいのではないかなと思う。そして集客率の高いスポーツ競技場、コンサートが行える施設が少ない、もしくは規模が小さいと思う。もしそれらがあれば都内からの来県者も増え、もっと活気のある山梨県になると思う。

(日川高校 風間さん)

山梨県に足りないところで、まず教育の面で、今多くの学校が統廃合になり、今年も大月の強瀬小が廃校になり、身延の方でもだいぶ学校が閉校になるというところがある。もちろん今財政が厳しい状況であるので、そういった状況になってしまう、また、子供が少ないからそういうふうになってしまうことは分かるのだが、そうなることで地域がだめになっていくと思う。学校がないところに子供のいる人たちは来ない。だからそれで地域がだめになってしまっ、より人口減少に拍車をかけているのではないかなと思う。そういった財政悪化ということも言っているにも関わらず、建設行政に無駄が多いということがあると思う。道路などについても、今まである道を広げるなど、そういう形で対処すればいいのに、何で畑をつぶして新しい道を作るのか。学校はなくしていくのに、そういった道を造ったりということはやるのがどうなのかなと思う。

また産業の面で、今耕作放棄地を県が一括して苗を植えたりして、また新しく貸し出すことをやっていることは耳にするのだが、今跡継ぎがいなくていずれ農業をやめてしまう農家の農地をどうしていくのか。そういった対策がなかなかとられていないのかなと感じる。農業の面で山梨県はブランド力はある。桃やぶどう、そのほかにも地域の伝統的な作物、やはたもや大塚人參などいろいろあるがブランド力があるのに他の所に知られていない。前に山口に行ったことがあるが、そこでタクシーの運転手さんに「山梨でも桃を作っているんですか。」と言われたことがある。向こうでは岡

山の桃が有名であって、山梨で桃を作っていることを知らない。山梨が全国一位なのに知らないのである。これは明らかに発信する力の不足ではないか。

そして最後に、街づくりの面で、今甲府の街はだいぶシャッター通りなども増えているが、やはり甲府の街は駐車場が少ないので、車社会の山梨ではそういった面で車を止められる駐車場が少ないため、甲府の中心街は遠慮されてしまう。でも昔はそういったことはなかった。なぜかと言えば、昔の方が公共交通が充実していた。今この意見交換会が始まる前に、この建物の前の道を通るバスを少し眺めていたのだが、何台か通ったのだがいっぱいになっているバスは一台もなく、どのバスも数名程度だった。そんな感じで誰も公共交通を利用しない。だから利用者が減る。悪循環である。だから公共交通をもっとみんなが利用できるようにしていかないと、中心街に駐車場を増やすということは限界があると思うし、そういった面で公共交通などをもっと充実するべきではないかと思った。

(山梨英和高校 網野さん)

私は女性について、グローバル化について、学生について少しお話しさせていただきたい。

まず女性について、企業の女性のサポートが不十分ではないかと思う。産後の社会復帰がまだまだ難しいことが現状であること、そして産休中の給料制度が整っていないことが挙げられると思う。また、産婦人科や分娩を扱う医師が少ないこと、そして女性の県議会議員が少ないこともとても大きいと思う。女性が活躍するためには県議会議員も多くないといけないと思う。

そして次に、グローバル化について、英語をはじめとした多言語で翻訳された標識が山梨はとても少ないと思う。そして外国人の山梨での就職がとても難しいと思う。私の友人の外国人の方も、山梨で就職するのがとても難しいと言っていて、そうするとやはり東京など都会に行ってしまうので、そういうところを改善していったらもっと山梨がグローバル化していくと思う。

そして学生について、TOEICやIELTSといったテストが山梨県で受けられないこともとても大きいと思う。

(後藤知事)

山梨県に足りないところについて、素直な意見を聞かせていただき嬉しく思う。

中島さんからの耕作放棄地が増えていると話はそのとおりである。私も就任してまだ1年経っていないが、今3千ha以上の耕作放棄地があって、それをあと3年から5年位でまず半分にしようということで今計画を作りながら鋭意対応している。北杜市では今、白州や明野、武川などでいわゆる企業参入という形で、いろいろな県外からの大きな食品メーカーなどが進出して、広めの農地をハウスなども使いながら野菜を作ったり、ワイン、葡萄を作ったりということを行っている。北杜市には平らな土地が多いので、企業の皆さんにとって一番関心があるのは実は北杜ではないか。計画的にその部分に対してきちっと対応していきたいと思っている。先ほど風間さんから農業の跡継ぎがないという話もあったが、就農支援、要するに農業に新しく入る、高校を卒業して実家が農業だから両親と一緒に農業をやるという方、少し違う仕事をしていて新しい仕事として農業に就く方、仕事をリタイアして農業に就く方の3つのケースがあるが、初めの2、3年は最低限の給与、所得が取れるよう国もそういう仕組みで全体の就農支援をしているが、山梨県でもその後押しを県独自でもう少し手厚く行っている。また、農地中間管理機構という機関において昨年からはじめた試みがある。山梨は果樹が盛んであるが、ぶどうや桃というのは、野菜と違い、種を撒いたら

すぐ翌年から収穫し、売ったりすることができない。そこで、中間管理機構でまず3年位苗を少し大きくしてから農地を貸し出すという仕組みを昨年から始めた。4年か5年目からは小さい芽、果実が実り始める。新たな就農を後押しするため、中間管理機構である程度苗を成長させる。まだ面積的にも少ないが、全国的にもモデルケースであり、そういうことを通じて跡継ぎ、農業の担い手を確保していく。

私も実は実家は農家だった。今はもう農業はやっていないが、40年前はお米で言えば食管法という法律があり、生産者の価格、要するにお米一俵いくらということは政府が決めていた。その仕組みは20年前に無くなり、今はおいしいお米はそれなりの値段で売れる、そうではないお米は安くなってしまおうという、いわゆる野菜や果物と同じように自由に価格が決まるという仕組みになった。そこで何が起こったかというと、人口が減少したり、高齢化が進むと、胃袋の数が少なくなるということでイコール需要が少なくなる。そこで、今国際化、グローバル化も進む中で、果物も県内、国内だけの需要ではなく、海外の需要までもやはり取り込んでいかないとだめという形で、今ここに座っている松谷知事政策局長が担当して、国際総合戦略という山梨県全体でこれから国際化に向けて何をしていくのかという計画を策定しているところである。これは網野さんから先ほど少し話があった教育の資格なども含まれるが、それをどう活用するのか。山梨に今1万2、3千人の海外の国籍を持った方がいらっしゃるが、そういう人たちとどうお付き合いをしていくのか。本日数字が出たのだが、昨年の11月までに既に120万人位の外国人の方が山梨に泊まっている、その前の年に比べると30万人位増えている状況だが、実は今観光業の中で英語ができたり中国語ができたりという方が非常に少ないため、来年度から通訳案内士を育成し、観光産業などにお勤めをいただくなどの取り組みを進める。山梨県の若い皆さんがいろいろな資格を取りやすい環境というのは少し工夫をさせてもらいたい。

一昨日、山梨県と27の市町村が共同で石和に産前産後ケアセンターという施設を開設した。妊娠したお母さんたちがいろいろな相談をしたり、疲れを癒したりして泊まってもらう施設であり、実際の利用は来月の15日からスタートするが、今月の12日からは電話相談を365日24時間行うことのできる仕組みを作り、できるだけ若いお母さん、お父さんが安心して子供を育てやすい環境を整えている。実はこれは全国で山梨が初めての取り組みであり、山梨モデルと私たちは言っているのだが、先ほど話があった会社に入ってから妊娠をして、出産前には育休を取ったりできるという仕組みがまだ十分でないというのは、そのとおりかもしれないので、これも民間のそれぞれの企業の社長さんたちに対して、その必要性、仕組みの充実を私たちが公の立場でこれからも集中的にお願いしていきたいと思っている。

風間さんからたくさん意見をいただいたが、確かにそういう部分もあるかもしれないが、今道路を造ったり橋を造ったりするには、誰か一人がどうしてもここに造りたいということだけでなく、それぞれの地域の自治会などから市町村などを經由して、県道であればその市町村がまとまってこういう新しい道路が必要ですよということを県が受け取って、その後いろいろな手続きを踏んで事業化していくというのが普通の手順である。これは国道や高速道路でもまったく同じである。今社会インフラ整備というのは、かなりの部分が終わったと言われているが、これから、いわゆる事業として改修するのは、オリンピックの時など50年以上前に造られた橋や道路であって、それらがたくさんあり、いわゆる補修維持管理をしていかないとならない。この防災新館の建物はまだ3年目で新しいのだが、同じ敷地にある県庁の別館は85年位前に建てられ、古くなったが改修して今は中が本当にきれいになっている。これからは、維持管理の部分に非常にお金がかかる。よって、できるだけコストを下げ、なおかつ安全で安心に使えるということを前提に進めて行く。

また、二人の方から公共交通機関が弱いというお話を聞いたが、私もそう思っている。本県にはいわゆる公共交通機関として、バスは事業者が2社、電車も中央線と身延線、富士急行線などしかない状況である。たくさんのお客さんをとというのはすぐにはできない問題であるが、みんなの足と言われているバスについては、市町村が主体になって、あえて細かい話はしないが県も国もかなりの金額をかけて、バス路線を何とか現状を維持するように今取り組んでいるということはぜひ理解いただきたい。

また、風間さんから話があった小中学校の統廃合の問題、経済的な議論だけで学校をなくすのは、人口減少や地域の活力がなくなっていくことにつながっていくという話もそのとおりであるとも思う。何とか今のベースを守りながら、もっと将来に向けて明るい展望が開けるように、この総合計画を作るにあたり、私もそうであるし、県庁の職員もみんな同じ思いで取り組んでいる。やはり若い皆さんたちがもっとがんばれる、元気になれるという山梨づくりをしていかないとだめである。そのため、いわゆる縮小再生産、どんどん負の連鎖、負の循環になっていくのではなく、もっとプラスの正の循環にしていこうということがこの厚い200ページ以上の総合計画や人口の総合戦略、人口ビジョンを作る時に考え抜いて一番気持ちを込めた部分である。この総合計画はもう既にホームページにも掲載してあるので、時間がある時に読んで意見をまたいただきたい。

少し長くなったが、最後に今公共交通機関ネットワークの再構築の計画を作っている最中であるので、今話があった若い皆さんが特に商業施設に買い物に行ったり、映画を観に行ったりする時の交通の不便さなど、公共交通機関が山梨の足りないところといういい意見をもらったので、計画策定までにはあと半年位はかかってしまうが、その中にしっかりと入れ込んで、まとめていくよう対応していきたい。

### (3) 未来の山梨県に望むもの

( 葦崎高校 若尾さん )

私が未来の山梨に望むことは、働きたいと思う企業の誘致、また魅力的な学校の設置である。

今山梨で問題になっている人口減少で、人口の流出傾向が最も多いのが20代前半の若者である。その原因として、魅力的な就職先、進学先が不足していることが挙げられると思う。解決策として、企業の誘致についてであるが、私が通っている葦崎高校の卒業生であり、先日ノーベル賞を受賞した大村智先生が「山梨からビル・ゲイツを」と言っていた。それを私は、山梨県が情報産業の集積地となって日本のシリコンバレーと言われるようになればいいということだと捉えた。情報産業は製造業などと違い、燃料や製品の輸送が必要ないので、山梨県のような内陸でも発展することが可能だと思う。また都会よりも山梨の自然の中の方が集中して仕事をするにはいい環境かもしれない。このように山梨のいいところを生かせるような産業や企業を誘致すれば、若者にも興味を持ってもらえて、山梨で就職をする人も増えるのではないかと思う。

次に魅力的な学校の設置についてであるが、私の周りでも進学したい学校が山梨にないから県外の学校に進学すると考えている友達が多くいる。そこで、新しい学校を設立すればいいと思うが、実際に時間やお金がたくさんかかってしまうので、案として首都圏の魅力的な大学の学部や学科、専門学校の学科などを誘致するのはどうだろうか。県内の若者の流出を防ぐだけでなく、様々な分野での優秀な人材を招くことも実現できると思う。さらに山梨県は首都圏に隣り合っていて、リニア中央新幹線も開通するので、アクセスが簡単になってくると思う。山梨の長所を利用できる機会にも

なるのではないかと思います。

これらのことから、働きたいと思う企業の誘致、また魅力的な学校の設置が実現すれば人口の減少の問題も改善の方向に向かうのではないかと。

(甲斐清和高校 佐藤さん)

私が未来の山梨へ望むことは、外国人が山梨県に訪れた時に過ごしやすいように環境を整えてもらいたいということである。そう考えたのは、私は今年インドネシアの学生のホームステイを受け入れた。事前の説明ではイスラム教徒である彼らは豚肉を食べることが宗教上できないと聞いており、彼らと外食をしようとした時にどの飲食店がイスラム教徒の人にとって安心して食事ができるかが分からず困った。イスラム教徒の外国の方が一人で山梨県に訪れた時はなおさらどこで食事ができるか分からないと思う。具体的な対策としては、イスラム教徒でも気兼ねなく食事ができる飲食店には認証マークなどを貼るといったことがいいと思う。

(巨摩高校 深澤さん)

私が未来の山梨県の望むことは5点ある。

まず一つ目は、公共交通機関の充実整備である。先ほども何度か話が出たが、これからはリニアの駅の設置なども予定されているので、環状交通網でかつ低運賃、短間隔運行の実現がなされたらよいと思う。

次に二点目は、多用途スポーツ施設の新設である。現在ヴァンフォーレのサポーターが多く、とても盛んになっているが、スポーツでも人を呼び込むことはとても有効だと思うので、他のスポーツでも考えてほしいと思う。

三つ目は、多様で豊かな雇用に恵まれた県づくりである。若者の流出を防ぐ、また他県から若者を呼び寄せるためにも雇用の整備はしてほしいと思う。

次に四点目は、バランスよく各地域に商業や職業の拠点が点在し、地域の個性が相互に尊重される地域力の充実である。特に私が考えているのは限界集落と呼ばれる地域の整備である。

最後に女性が社会参画し、活躍できる豊かな子育て環境の実現である。

(富士学苑高校 寺井さん)

私が未来の山梨県に望むのは人口が増えることである。それにより商店街などが活気付くということがとても望ましい。また、人口が増えるというのは、移住してきたり、山梨県で暮らそうという人が増えるだけでなく、観光客の数が増えるという意味もある。私は富士吉田市に住んでいるが、富士山では今登山料を任意という形で取っている。その使い途に関して、富士山ではボランティアでゴミを拾ったりする活動がたくさん行われているが、環境面、そして安全面へ配慮される登山料の使い方を望む。

(甲府商業高校 小池さん)

私が未来の山梨県に望むことは、元気があり人が多い町が増えてほしいということである。一部の市町村にのみ活気があるのではなく、県全体が活気あるものになることを期待している。子供を育てるのによい環境や就職先など、戻ってきたいと思わせる環境を作ってほしいと思う。病院や交通の便など、生活しやすい環境も必要だと思う。そうすることで人口も増えるのではないかと考える。

(後藤知事)

それぞれ大変素晴らしい、率直な意見をいただいて嬉しく思う。

順番が不同になるが、まず、企業誘致と魅力ある学校の誘致についてである。実は、昨年私が就任してから、県内外の80を超える企業から、工場機能を拡張したいという話があった。一つ御理解いただきたいのは、東京にある大企業がすべて素晴らしいということではない。むしろ、魅力のある企業は山梨にもたくさんある。大きな会社イコールいい会社というのは少し違うと思っている。皆さんは、やりたい仕事ややりたいものといった目標があると思うが、例えば水素の燃料電池を作りたい、開発をしたいというのであれば、当然大きな会社に行くという選択もあるが、山梨でも専門性を持って対応している会社がある。なので、もう少し時間を掛けて、どういう会社がいいのか先生達とも相談しながら考えてほしいと思う。

また、魅力のある大学ということについて、偏差値が高い大学イコールいい大学ではないと思っている。総合教育会議や教育振興ビジョンなどを先生たちは共有しており、また、公立と私立ではそれぞれカリキュラムや教育課程、先生たちの教え方も違っていると思う。具体的な数字になるが、今、山梨県全体の人口は84万人であるが、18歳から22歳までの人口比率は、甲府市を中心とした中では、全国で10番目か11番目である。企業と関係するが、やはり自分がしたい仕事や行きたい企業が山梨には少ないので、例えば県外から山梨の大学に進学した18歳から22歳の人が、卒業時には東京や地元に戻って行ってしまいうため、実は山梨は23歳からの若い人口がストンと落ちる。山梨には12大学があるが、魅力ある大学の誘致も必要だと思う。

人口増については、商店街に活気が出たり観光も良くなったりという、良い循環にしていかなければならない。また、山梨県に住んでいる人だけではなく、観光で来る人口、いわゆる交流人口であるが、観光産業というものがもっと山梨に根付くことが重要である。観光産業については、ホテルや旅館、土産物屋だけでなく、バスやタクシーなどの公共交通、農業の一部も実は観光産業であると、今、新しく定義を作っている。地域の経済を良くするために、中に住んでいる人だけではなく、外からの人も呼び込んでいくことを、大きな一つの仕組みにしていきたいと思っている。その際に、公共交通をどう充実させていくかも重要である。

そしてスポーツ施設についても、老朽化をしている部分があるので、新しくするかどうか最終的な計画を練り、いずれそれほど遠くない時期に県全体の考えとして示していきたいと思っている。

子育て環境の充実については、若い方がこれから結婚をして、子どもを産み、またその子どもが同じように勉強して社会に入るという循環について、一番始めに話をしたが、先祖が脈々とこの地域をつくってきたと考える時に、子育て環境というものは、今一番社会全体で後押しをしなければいけないと思っているので、責任を持って対応していきたい。

地域のバランスがあまり合っていない、企業や教育環境など山梨県全体がもっとよくなるような仕組みを作してほしいという話については、そのとおりだと思う。山梨の高速自動車道は、今は中央道と双葉から増穂までの中部横断道であるが、あと数年すると、双葉から新清水まで繋がることになる。中部横断道を通して、中央道と東名が繋がることになる。峡南地域に住まわれている方は、夜中に大きなけがをしたり病気になったりすると、中央病院など大きな病院に救急で搬送されるが、高速道路を使うことで命が助かったりする。ある意味では、山梨はそういう病院が決まっているので、いわゆるたらい回しすることなく対応ができる。目に見える距離にあるということが、一番優れている部分だと思っている。その点は、山梨の魅力であると思う。

イスラム教徒の方が来県した際に、利用できる飲食店が分からないということについてであるが、いわゆるハラール認証を受けたものでないと基本的には食することができないというルールになっている。そういう意味では、イスラム諸国からのお客様

に対して、山梨県全体でどのように取り組むかという時に、富士吉田や富士山の一部の地域、甲府などで、ホテルや旅館にハラル認証を多言語できちんと示しておくようにしておく。そうでないと、特にイスラム教を母体とした国からのインバウンドの面では、おもてなしをしていないということになりかねない。そのため、認証マークも含め、27、28年度で集中的にいろいろな地域の旅館やホテル、土産物屋など、いわゆる観光業と呼ばれるところの多言化を行うこととしている。いわゆる社会基盤だと思い、県、市町村、観光に従事するたくさんの事業者と一緒にいき、来年度位までにはほぼできあがっていく予定である。

最後に入山料の話であるが、基本的には富士山の頂上に登る方から任意で徴収している。この収入は、昨年は5、6千万円であったが、この用途は、環境面と、ヘルメットやマスクの購入などの安全面である。今後もさらに充実をしていきたい。

#### (4) 魅力ある山梨県にするためのアイデア

(北杜高校 大橋さん)

魅力ある山梨県にするためのアイデアであるが、山梨県の優れているところは、やはり自然の豊かさであるので、それを生かしている街をつくっていったらいいと思う。

遠くから来てくださるお客さんが「山梨は自然がいいから住みたいと思う。」とよく言ってくれる。その理由として、日本人は米を主食としているが、子どもに自分たちが主食として食べているものがどんなもので、どういうふうに育てているのかということをお教えながら、自然と関わりながら子どもを育てたいということで、山梨県に住みたいと思ってくれる人が結構いらっしゃる。

具体的なアイデアとして、先ほど交流人口という話もあったが、農業に興味を持ってきている方や外国人の方、外国人の方は、日本の昔の暮らしとして、自分で作ったものを自分で食べるということをとっても好む。そのため、農業をシェアできるような、体験できるような取り組みをする。泊まる施設はゲストハウスなどで賄う。かつ、自分たちでログハウスのようなものを造れるという計画を立ててあげれば、外国人の方は自分で造ることが好きなので、造っていくことが楽しいということでリピーターが増えると思う。

そういうふうにして、外からのインバウンドで利益を上げる。そのためには、やはりネットワークが必要であり、地域で信頼関係を築いて口コミで広げるとか、あとはやはり今はインターネットでグローバルな時代なので、インターネットをうまく使って広げていけると、いい地域にすることができると思う。

次に税の使い方であるが、外国人の方にアンケートを取ると、自分たちの税がどこで使われているかが分かるので、政府を信用できると言っている。しかし、日本人にアンケートを取ると、政府は信用できないという結果が結構残る。その理由としては、やはり税がどのように使われているか国民に明確になっていないからではないか。そこをうまく提示できれば、もっと信頼も得られ、スムーズに施策を運ぶことができるのではないかと思う。

山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略について、PDCAサイクルの中で大事なところは、Cのチェックだと思う。そのチェック、うまくいっている、いっていないということをしっかり分析できてないと、アクションに移すことができない。チェックでうまくいっていないと、アクションをしても意味がないものになってしまうかもしれないので、チェックをうまくまとめていけたら、いい取り組みになっていくのではないかと思う。

心配なところについては、リニアが開通するにあたり、資源や環境の面は大丈夫な

のか。また、高速道路が安くなったことで、ストロー効果で自営業の店の売上げがすごく下がってしまった。リニアができることによって、ストロー効果が起きてしまうのではないかと思うので、そうならないように魅力的な山梨をもっとPRしていただければいいのではと思う。

(甲府東高校 杉田さん)

私は甲府市に住んでいるが、さらに山梨県を魅力的な県にしていくためには、やはり県庁所在地である甲府は外せないと考えている。そのため、知事にはまず甲府の、特に中心街のテコ入れをしていただきたいと考えている。その具体的な案の一つとして、先ほどの話にもあったように、山梨県は車社会が根強く浸透している。そのため、より大型の駐車場をまず甲府に造っていただきたい。記憶が不明確だが、現在、市役所の駐車場が1時間無料とか、お昼は無料というようなことを聞いたことがある。市役所に用事がなくても、その駐車場に車を停めて、甲府の街中に用を足しに行くという方法があるということを知ったので、それを県を挙げて行っていけば、さらに甲府に人が集まると思う。無謀なことだとは思いますが、その際にできれば立体駐車場ではなく、平地の大型駐車場にしてもらいたい。これには土地の問題などいろいろあるかもしれないが、女性や運転の初心者の方たちは、きっと立体駐車場の1階部分や2階部分など、上に屋根があるところに対しては閉塞感を感じてしまい、停めるのがおっくうになるという傾向があると聞いた。そのため、無理かもしれないができれば平地の駐車場にしてもらい、もしくは立体駐車場でも、車を停めるスペースを1.2倍などに広げてもらえれば、立体駐車場を使用するユーザーが増えると思う。

また、これは甲府市内の百貨店への要望かもしれないが、私の小さい頃や親の話では、よく百貨店の袋を持っていると少しだけ気分が高揚するというのを聞いた。やはり甲府市内の百貨店は、山梨県の中でもブランド力がある一つの企業だと思う。そのため、県を挙げて甲府市内の百貨店をサポートしてもらえるとありがたいと思う。その中でも、百貨店やデパートを三世代で楽しめるようにリニューアルしてもらいたい。先日、甲府市外の大型ショッピングセンターに東京からのアパレル店が入り、初日には大勢のお客さんが訪れたと聞いた。やはり、中高生大学生なども含めて、若者が風をつくるのが地域の風通しをよくすると考えている。

幸い、山梨にはまだまだないものがたくさんあると思う。これを逆にチャンスと考え、甲府市に新しい店の出店を進めていけば、今まで甲府に来なくても用が足りていたことが、甲府に来なければ用が足りないという構図ができ、さらに甲府に人が集まると思う。

また、主観的なものになってしまうかもしれないが、山梨県の県民性として、新しいもの好きの傾向があると思う。中でも、北海道物産展など、普段はないようなものが入ってくると大盛況である。さらに他の新しい物産展を開催したり、流行りのお店を期間限定でオープンしたりすることで、飽きずにまた次のお店を見ることができるといっても、一つの魅力的なアイデアではないかと思う。

また、先日原宿に行き、新潟のアンテナショップにも行った。アンテナショップというのは、皆様ご存知のとおり、その都道府県で売られているものなどを中心に売っている店である。そこでは、普段山梨に住んでいては見ることもできないような新潟県の食材などを見ることができた。山梨のアンテナショップも実際に東京にあるのだが、まだまだPRが薄いかなと思う。また、アンテナショップの一つの利点として、山梨は東京に進学する方が多くいると思う。通常東京では手に入らない山梨のものを、そこで買うことができれば、山梨にUターンするなどの可能性も出てくるのではないかと考えている。

最後に、東京のはとバスのような市内、県内の観光地を巡るバスをつくってもらえると、さらに県外からの人も増えると思う。現在甲府駅前から昇仙峡の方などをタクシーで回るといふものはあるが、それ以上の大人数で回るサービスというのはあまり耳にしたことがない。それをつくる時に、いくつかのコースに分けてもらえると、さらにニーズに合わせられると思う。一日コースや、半日、さらには1時間や2時間など短い時間もあるといい。山梨は電車本数も少ないので、この次の電車までの時間を上手に使えるような観光業を営んでいけると、さらに山梨県に対してのニーズも上がるのではないかと考えている。

以上拙いアイデアではあるが、さらに後藤知事には様々なアイデアを振り絞って政策をしていただければ、リンケージ人口を増やしていけるのではないかと考えている。

(富士河口湖高校 渡邊さん)

私の考える、魅力のある山梨県にするためのアイデアであるが、一つ目は、県内のいいところをまずは山梨県民がよく理解して県外に広めていくことが必要だと考える。私の学校では、SGH、スーパーグローバルハイスクールのアソシエイト校の指定を受け、富士北麓から世界へという取り組みを行っている。私のクラスでは、人口減少について取り組んでいる班があるが、そのアンケートの結果によれば、都会にあこがれを持ち、好印象を抱いている人が多くいることが分かった。しかし、現在私たちが気付いていないだけで、山梨県のいいところも、考えてみればもっとたくさん出てくるのではないかと思う。それを、まずは今現在、山梨県に住んでいる人がよく理解して県外に広めていけば、住みやすい県というアピールができ、観光客が増えたり、人口増加につながると考えた。

二つ目は、空き家を利用すること。空き家問題に取り組んでいる班の調査から、山梨県にはたくさんの空き家があることが分かり、富士吉田市ではその空き家を活用している人がいるということが分かった。そこでは使える廃材は残し、歴史あるものを受け継ぎながらリフォームをして、民宿などにしていた。そんな空き家を利用して、地域の高校生同士でサミットを開いたり、外国人観光客に山梨県の歴史を伝えたりすることができるのではないかと考えた。

三つ目は、この地域ならではの商品開発ができるのではないかと考えている。商品開発について取り組んでいる班では、昨年11月に河口湖で行われた紅葉まつりでクッキーを販売した。大きさや味、デザイン、値段や名前などをすべて自分たちで考え、販売も自分たちで行った。このような取り組みから、地域の特徴をアピールしたり、販売の際にはコミュニケーションを取ることができるのではないかと考えている。

次に富士北麓地域の文化について取り組んでいる班があるが、その班の取り組みとして「木花開耶姫(このはなさくやひめ)」の神話を紙芝居でアレンジして地域の子供たちに伝えたり、富士北麓地域の文化をクイズ形式にして小学生に発表したりすることを行っていた。山梨県の歴史をより多くの人に受け継いでいくことは、今後山梨を良くするためのアイデアを生むきっかけになったり、原点に戻って考えるきっかけになると思うので、そういったことも必要だと思う。

(笛吹高校 山本さん)

魅力ある山梨県にするためのアイデアであるが、私は山梨県が大好きである。山梨県は自然が豊かで空気がおいしい、水もおいしい。あとは果実王国と呼ばれているだけあって、ぶどう、桃、いろいろな果実が採れるということも魅力である。そんな中、山梨県が桃の生産量一位ということはあまり知られてない。これはとても大きいと思う。他県でこういうことがアピールできれば、他県からの人も増えると思う。

この間、千葉県の子供に聞いたのだが、山梨県はたまにすごく来たくなる時があり、それは癒しを求めている時であると言われた。確かに山梨県は空気がおいしく、澄んでいることから、夜、特に冬場は星がとてもきれいで、あとは先ほども言ったとおり水がおいしい。あと、私は山梨県の子供の優しさをすごく感じる時があり、そこをもっと山梨県でアピールできればと思う。

あとは山梨県のフルーツ、桃やぶどうを使って新しい名物を開発できればと思う。確かにほかの県で桃を使ったものがあると思うが、桃の味だけではなく、香りだったり、食感だったり。私の高校では、天然酵母を使い、果実でパンをつくるという研究をした。そういうことを利用して、新しい商品を開発できれば、山梨県はこういうこともできるというアピールができるのではないかな。

(中澤政策参事)

どうもありがとうございました。

これで全員の方に一通り発言をいただいたわけであるが、魅力ある山梨県にするためのアイデアということであとお一人面白い意見をいただいていたので、甲府一高の服部さん、もしよろしかったら発言をどうか。

(甲府第一高校 服部さん)

昨年度から甲府一高は、文部科学省からSGH、スーパーグローバルハイスクール校に指定され、山梨県出身のグローバルリーダーを目指して日々努力をしている。2年生は19の班に分かれ、それぞれの班が山梨県の課題を設定し、それを解決するためのプランを提案するというのを1年を通して行っている。

僕の所属している班では、Peach to Peace(ピーチトゥピース)というプランを計画した。課題は山梨県の果樹の発展である。ネーミングについては、桃のピーチと平和のピース、一文字違いの綴りが、外国の方から見てキャッチーなのではと考えた。プランの概要についてであるが、プランを行うのが2020年の東京オリンピックが開かれる8月ごろ。富士山の頂上は、1周3kmであるので、一人の人が1mの幅を取るとすると、3千人が手を繋げば1周できるという計算になる。3千人が手を繋ぎ、山梨県で最近開発された「夢みずき」という桃を食べてもらいたい。この桃が「夢みずき」であるということが今回のキーポイントであるが、「ハナミズキ」という花があるが、その花言葉が「永遠に」「継続性」という意味である。では、そのハナミズキのミズキという言葉に永続性という意味があるのなら、夢みずきの場合は、夢を永遠にということになるはずである。

その3千人で、富士山の頂上で夢みずきを食べる。しかもオリンピックの時期に行うということは、その3千人の中に外国人の方も多く含まれると思う。その外国人の方を含めた3千人、万国共通の夢は、世界平和なのではないか。3千人で手を繋いで夢みずきを食べながら世界平和を祈る。そうすると、既存の夢みずきという桃に平和を祈る桃であるというブランド、付加価値を付けることができると思う。そして、夢みずきが県外や国外に出荷された時、夢みずきを見て、これは平和を祈るための桃なのだと思えば、さらに広く発展するのではないかな。そして、その夢みずきを食べるイコール世界平和を祈る。このブランド化ができれば一番いいと思う。

このプランを作る際に、県庁の観光部や農政部、そして県果樹試験場の方々にお世話になった。そのおかげもあり、来月中旬に鹿児島県で行われるグローバル研究発表会というプレゼン大会に参加することが決定した。

この会議の名前にもあるが、山梨の未来について、私たちのような若い世代だからこそできることをしていきたいと思った。このプランも、大人であれば現実的なのか

ということを考えてしまうと思う。大人がモノを考える時、やはり土台にあるのは実現できるのかということだと思う。しかし、私たち若者はいいい意味で社会を知らないと思うので、その固定概念を排除し、現実性があるのかどうか関係なく、まずは面白い企画をすることが、私たちにできることなのではないかと考えた。私たちだからこそできることをこれからも続けていきたい。

(後藤知事)

皆さんが共通しているところは、情報発信が足りないということで、それは魅力ある山梨にするための一番のベースだと感じた。

関西では、岡山の桃は有名だが山梨の桃は有名でないという話については、まったくそのとおりである。知事就任後、東京の大田市場と大阪の市場で、JAの方とそれぞれセールスをしたが、関東ではまだ分かってくれるが、関西ではまず山梨がどこにあるのかから説明をしないとならず、ワインだと海外から来たお客さんのようなイメージがある。これはなぜかと言うと、例えばこの南部茶のペットボトルについては、山梨の南部という地域を知っている方がいれば、山梨県で採れたお茶を使ったペットボトルだと分かる。桃は箱を取ってしまうと地理的表示がないので、どこで作った桃か分からない。今までの売り方は、農家の方が市場に出した時、そこでは箱に「笛吹の桃」や「日川の桃」など入るが、スーパーでは全部箱から取り出され、桃だけが並んでいる。山梨の桃とあっても、それを見て買う人がどれだけいるかどうか。この数年間で、どこで採れてどこで作られたものなのかという生産者の顔が見えるような仕組みが、日本だけではなく世界の中でも大切という雰囲気になっているのでこれからは違ってもいいが、どこで作ったということを追わず、品質がよくて値段が適正であればいいとなってしまう。私のネクタイは1年間ずっと郡内織のネクタイである。実は、山梨県が日本で一番ネクタイ地の生産が多い。しかしほとんどの人は、ネクタイがどこで作られていようが、デザインが良くて値段が適正であればそれを買うというのが普通である。しかし、山梨で作ったものをもっと良くしていこうという気持ちをみんなで作れば、顔が一番近くに見える人たちから物を買って、そうするとその地域の循環が良くなると思う。

甲府市で生まれ育った人が、自分の市に一番良くなってもらいたいと思うのは当然である。そういう意味で、甲府の中心市街地を他の地域よりも良くしたいと思うことも当然である。駐車場があればお客さんが来て、昔のようにたくさん人が集まって買い物をするという話があったが、山梨県内で人口が増えているのは、昭和町と忍野村、あと北杜市がフラット、甲斐市が少し伸びている位で、あとはフラットが減少している地域がほとんどだろう。その時に中心市街地がどういうふうな魅力を持つのか。例えば、甲府市外の人たちが甲府の中心街に何を求めているか、そのニーズを踏まえた街づくりや品揃え、お店の運営ということをお客さんがしないかぎり、バスや電車で1時間かけて来て、そこで買い物をするということはなかなか難しい。特に、今はネットで簡単に物が買える時代になっている。そのため、今までは地域で差別化をすればよかったのが、世界の中で差別化をしていかなければ商売が非常に難しい。それが実はグローバル化の時代だと思っている。

そのため、創意工夫を凝らし、山梨全体で情報発信をする。もっと山梨が良くなってほしいというのは、今日の19人の皆さん方の共通の思いだと捉えた。みんなの知恵や力の一つにしていかないとそれが実現できない。私は、大村智先生がいつもおっしゃっている言葉をとても覚えている。一つは、新聞やテレビで聞いているように「人の役に立ちたい」。これは皆さんもおそらく同じだと思う。そしてもう一つは「一期一会」。もしかしたら、私と皆さんは一生に一回しか会わないかもしれない。しかし、今

日この時間を共有し、こういうご縁で話をしたことを、明日からどう生かすのか。そしてそういう中で、共通の友人になったり、一緒に仕事をしたり、地域活動や勉強にプラスになるということと併せて、「生ききる」ということを大村先生はよく話される。何となく生きているのではなく、自分で極めて、人に役立つ、もしかしたら今日しか会えないかもしれないことを大切にする。そして、自分の研究や仕事や勉強を精一杯やってみるといのが多分「生ききる」という、大村先生がおっしゃっていることではないかと思っているが、それは皆さんはもっと若いので、おそらくいろいろな捉え方があるかもしれない。

「Peach to Peace」は語呂が非常によい。「夢みずき」の生い立ちを学んでいくと、去年のように夏暑かったり、日照時間が少なかったりしたときに、色も味もいいものをとということで、農家の皆さんや農業試験場が工夫をして「夢みずき」を作った。しかし、シャインマスカットは、岡山にある国の試験場で作ってあるので、山梨独自のものではない。「夢みずき」は山梨の果樹試験場で作ったオリジナル品種である。産地の囲い込みやブランド化が、他よりも差別化ができる品種であるので、ぜひそのプランを実現していただきたい。

私が去年知事に就任した直後に県庁職員に話をしたことは、失敗することは当然あり、そして固定概念で今できないからと言って諦めるのではなく、どうしたらできるかということと一緒に考えようということ。それは今でも話をしている。確かに20年30年一つの組織の中で仕事をしていけば、みんなそこから踏み出すのは嫌だし、中にいるほうが楽である。おそらく皆さんもそうだと思うが、先生たちは、誰か一人だけ特別扱いはできないから、みんなにもっと勉強しろと言う。皆さんが大人になっていく過程で、高等学校生活というのは、私立や公立、地域は違うが、愛情は同じである。しかし、それを皆さんがどう捉えるかというのは、お父さんお母さんのお仕事でも当然違うと思う。今日話を聞いて、いろいろなことを考えてくれているなど嬉しく思った。そういう意味で、皆さんがこういうふうになりたいと言ってくれたことは、我々も自分の仕事というより、ここに生きていく中で、皆さんが頑張れる土俵を作っていかなければいけない。できれば、来年度早々にはアジアのいくつかの国で、山梨の果物や観光など、山梨の魅力をセットで情報発信ができるような、いわゆる常設の山梨モールというものを作りたいと思っている。

ただ、先ほど話もあったが、やはり税金は県民全体から預けていただいたものであるから、それをできるだけ見える形にしていけないといけない。フィンランドのように、税金が高いがいろいろな保障ができていいという国もある。日本がどの程度まで税金を上げていけるかどうかというのは、もしかしたらこれは若い皆さんがこれから挑戦することだと思っている。今税金を上げるのは、ほとんどの人が嫌だと思っている。むしろ下げてほしいというのがほとんど。やはり、負担は下げて、サービスは高くというのが普通の人間の考え方である。なので、税収と行政サービスの程度ということは、先ほどの道路を一つ作るにしても何を優先的にやっていくかということにつながる。山梨だけでも84万人の人口がある。全国だと1億2,800万人の人口がある中で、バランスを取るのが私たちの役割の一つであるが、固定観念というものを私はできるだけ捨てようと思っている。

繰り返しになるが、今、勉強にしても、これから進学や進級をしたりする中でも、こんなことはやりたくないということが多分あると思う。私もそうだった。しかし、それは必ずどこかの時代で生きるということ、何かのプラスになるということ必ず思っほしい。両親に対しても、嫌だとかうるさいと思う、私も思った。今は思われているのかもしれない。しかし、それはやはり両親が皆さんのことを一番心配しているし、先生もそうである。みんな皆さんを愛しているし、よくなってほしいというこ

とがベースにある。

一期一会という中で、今日の皆さんの意見は本当に嬉しく思った。今まで話をしたことを実行するのは私たちの世代の仕事かもしれないし、もしかしたら途中までしかできないかもしれない。だから皆さんの世代にやってもらうこともたくさんある。魅力ある山梨にするために、明日解決できるものが全部あるわけでもないし、1年後、5年後、10年後かもしれない。できるところまで我々の時代がその土台を作るので、不十分な部分は、皆さんの世代がその時代のニーズに合った新しい視点でぜひ作り上げていただきたいと思う。

今日は牛奥委員と萩原委員に来ていただいているので、一言感想をいただきたい。

(牛奥委員)

今日は、皆さん素晴らしい考え方を持っていらっしゃるということと同時に、山梨に対する愛着がよく感じられた。その中で、交通面や観光面などあらゆるものを求めていること、それからこうしていったらいいのではないかと皆さんの考えを伺った。その中で、山梨県人ってこうだから山梨に住みたい、子育ても山梨でいたいという人間性をぜひ育てていただきたいと思う。

後藤知事は、いかにしたら皆さんがこの山梨に住んでよかったと思えるか、ということを生懸命考えながら政治に関わっている。これから一人ひとりが、全国、ひいては世界でも知られる山梨の県民性ということを考えながら、成長していただきたいと思う。

今日はオブザーバーとして出席させていただき、本当にいい勉強になった。これから女性が活躍していく中で、これからの若い人はこんな考え方を持っているということを知ることができ、本当によかった。

(萩原委員)

私は労働組合の立場、働く者の代表ということだが、直接高校生の皆さんの話が聞けるということだったので、今日は横浜にいたのだが、日本橋にある山梨のアンテナショップを経由して、こちらに帰ってきた。山梨のアンテナショップには定期的に通っているが、結構変わってきている。定期的に行くと分かるのだが、アンテナショップの2階には山梨のワインを試飲させてくれるコーナーなどがあるが、そこは少し寂しいかなという感じもするが、頑張っているということは肌で感じる。

今日いくつかの視点で話を聞かせていただいた。一言で言えば、本当に来てよかったという感想である。日常の仕事に追われていると、山梨の優れたところ、自然のちょっとした良いところなども忘れがちであるが、そのことを皆さんの口から直接聞いて、本当によかった。全部メモをとらせていただいた。

それから、山梨に足りないところもおっしゃるとおりだと思う。連合山梨という組織は、それぞれの方々の意見を聞いて、年に1回山梨県へ政策を提言するということをしている。もう少しこういうところをこういうふうに変更してくれないとか、こういう政策を盛り込んでくれないかと。昨年の10月も後藤知事に直接提言をさせていただいた。実は、その中にもいくつか入れたいと思う項目が今回あったので、ぜひ参考にさせていただきたい。

それから、未来の山梨に望むもの。雇用の問題や、教育、暮らし、人口を増やしていくんだという思い。一つの地域だけが生き残るような施策ではいけない、山梨がそれぞれの地域の特色を生かして、すべてを底上げしていくことが大切であるという皆さんの思いがすごく伝わってきて、本当に頼もしいと思った。

それから、魅力ある山梨県にするためのアイデア。素晴らしい。我々も、魅力ある

企業にするためにはどうするのか、魅力ある労働組合にするためにはどうするのか、そして魅力ある県にするためにはどうしたらいいのかということを常に考えているつもりである。しかし、やはりまだ固定概念があったり、やる前から結果を考えてしまったりというところが、我々にはどうしてもあるのかもしれない。そのことを皆さんから聞き、反省もしたし、またしっかりと皆さんと共有させていただき、これからの活動に活かしたいと思う。

最後に、私がいつも思っていることであるが、何も生まれないとはいわないが、成功から得ることというのはあまりないのではないか。ただ、失敗から得ることというのは非常に大きい。今までの歴史は、すべて失敗から何かが作られ、結局それが今の時代に繋がっているということであるので、ぜひ失敗を恐れず、皆さん方の若い力で、これからも頑張ってくださいたいと思う。

(後藤知事)

改めて本当にありがとうございます。

先ほど大村先生の3つの言葉を言ったが、最後に一つ、よくこれも言われているが、「過去は変えられないが、今と未来はみんな自身で変えられる。」ぜひそれをもって頑張ってくださいたい。

## 5 . 閉会

(中澤政策参事)

本当に活発な意見ありがとうございました。

時間となったので、本日の意見交換はここで終了させていただきます。